

3. 中期計画

3.1 中期計画における平成27年度目標と実績

3.1.1 年次目標の概略（石川県公立大学法人 平成27年度計画 概要版より）

■平成27年度は、引き続き「学生満足度の高い教育の提供」「地域貢献活動の充実」「学生確保に向けた広報活動の充実」「弾力的・機動的な法人運営」の4つを柱に掲げ、業務に取り組む。
■平成27年度は、第1期中期計画（6年間）の第5年度目であり、着実に中期計画を達成できるよう、この計画を実行していくとともに、地元企業等と連携した産業振興や学生の地元定着など「地方創生」に向けた取り組みについても、対策を講じていく。

看護大学

「地方創生」「地域貢献」に向けた取り組み（No.64-1.64-2.64-3）

かほく市をはじめとした県内市町との連携のもと、教職員、学生が一体となって、地域のニーズにこたえる教育研究・地域活動を行い、学生の社会人基礎力を育成するとともに地域医療の質の向上を図る。また、こうした活動を通じて、学生の地域への理解を深め、関わりを強化し、地元定着を図る。

自己点検評価システムの確立（No.39-1.50-1）

認証評価機関による7年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を2年ごとに自己点検できるような評価項目の選定やデータの蓄積方法等を検討し、評価体制の確立を目指す。

教員の研究能力の向上（No.37-1.50-1）

教員による研究の質を向上させ、保健医療福祉の発展に貢献できるよう、研究業績の点検評価を行って課題を把握するとともに、FD※研修など教員の研究能力を高めるための方策を実施する。

※ 大学の授業改革のための組織的な取り組み（FD=Faculty Development）

学習支援の充実（No.1-2.6-1.7-1.184-1）

・初学年学習支援

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、アカデミックリテラシー※の取り組みを充実するとともに、生活相談、修学支援情報の周知等の充実や図書館による学習支援の方策を検討する。

※ 「調べる」「書く」「意見を述べる」など大学での学習方法や基礎的能力を身につけること

・異学年交流の促進

授業、地域貢献活動、サークル活動、自治会活動など様々な場面において、異なる学年間の交流機会を設けることにより、先輩の勉強方法や大学生活の知恵を学び、自学自習意欲を高めるとともに、社会人基礎力、自主的な問題解決能力の育成を図る。

大学院の教育の充実（No.19-1.34-2）

現状の研究指導や教育支援体制の改善、ディプロマ・ポリシーに沿った教育の展開に努める。さらに、今日の看護界における大学院修了者に期待される能力や役割の動向を把握し、本学の大学院の構成、分野についての将来像を検討する。

3.1.2 平成27年度実績の概略

(石川県公立大学法人 平成27年度実績 概要版より)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 学部課程の充実 (No. 1-2, 2-1, 23-1, 28-1, 44-1, 69-1)

(1) 地域交流の推進

地域で生活する人との関わりを通じて、地域の暮らしや文化等の理解を深めるとともに社会人基礎力を育成するため、能登町と連携し、民泊を取り入れたフィールド実習を実施した。また、かほく市と連携した健康増進活動や被災地での災害ボランティア活動を通して、地域住民との交流・支援を行った。

(2) 学生支援の充実

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、初学年学習支援の一環としてアカデミックリテラシーの取り組みを強化するとともに、学年担任を中心に全学生と個別面談・指導を行い、学習目標を達成できるよう支援を行った。

(3) 国際交流の推進

学生が国際看護研修(アメリカ・韓国)に参加するとともに、南京中医薬大学(中国江蘇省)および吉林大学看護学院(中国吉林省)と教育や学術面での交流及び協力を推進するための覚書(MOU)を新たに締結した。

2 大学院課程及び生涯学習支援の充実 (No. 34-2, 63-1, 68-1)

(1) 臨床現場との連携強化

専門看護師等の実践能力向上に向け、医療機関等の職員が集まる実習指導者会議や北陸三県看護部長懇談会等を通して情報交換を行い、臨床現場におけるニーズを把握するとともに実習の充実を図った。

(2) 人材育成及び地域貢献事業の推進

「看護キャリア支援センター事業」の一環として、『感染管理認定看護師教育課程』等において現場のリーダーとなる看護職者を育成するとともに、「地域ケア総合センター事業」では、看護実践力向上セミナーとして、看護師や助産師に対する各種事例検討会を開催した。

(3) 国際貢献事業の推進

JICAと連携し、海外研修員の受け入れを実施するとともに(パラグアイ2名、キルギス等、中央アジア・コーカサス地域12名)、フォローアップ研修としてパラグアイを訪問し、これまでの研修成果を確認した。

3 教育実施体制の改善 (No. 36-1~39-1)

(1) 教育活動の評価・改善

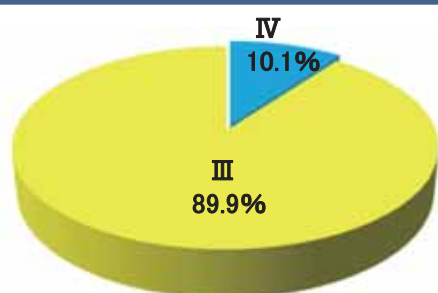
教員評価方法の改善や学生による授業評価の実施、FD研修への参加等を通して、教員のさらなる教育力向上を図った。

(2) 自己点検評価システムの検討

認証評価機関による7年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を2年ごとに自己点検できるよう、評価項目の選定やデータの蓄積方法等を検討した。

項目別評価の状況

I : 年度計画を実施していない。 II : 年度計画を十分には実施していない。
III : 年度計画を順調に実施している。 IV : 年度計画を上回って実施している。



項目	IV	III	II	I	計
教育	6	57	0	0	63
研究	0	11	0	0	11
地域貢献等	3	12	0	0	15
計	9	80	0	0	89